

高知大学は誰のもの！？

こんな大学に、私たちは授業料を払っているの？

2007年10月24日

「公正な大学運営を求める学生の会」

(連絡先: kousei_gakusei@yahoo.co.jp)

ご存じのように、先日高知大学の「次期学長候補者が決定」されました。しかし、新聞報道にもあるとおり、今回の学長候補決定に至るプロセスには、いくつかの問題点が指摘されています。

まず、一番の問題点は、開票作業終了後に、一部事務職員が勝手に投票用紙に触れるという不正行為が行われたことです。意向投票管理委員会が開票作業を終え、新人の高橋候補 419 票、現職の相良候補 378 票と票数が確定した後、一部事務職員が何ら権限がないにもかかわらず、勝手に投票用紙に触れ、その後「数えなおしたところ」、高橋候補 399 票、相良候補 398 票となったというのです。

小学校や中学・高校の生徒会レベルでもあり得ないことです。こんなことが大学という場で行われ、それがまかり通っているのです。許されていいのでしょうか？ しかも、その不正行為の真相、あるいは責任が何ら追及されることなく、不透明なまま次期学長候補が決定されたのです。私たちが通っている高知大学は、この程度の恥ずかしい大学になってしまったのでしょうか。

私たちは、この大学という場で、レポートや卒論を書くときは、常に客観的なデータに基づいて論証を進める！とたたき込まれています。そのデータがねつ造、改ざんされたものであれば、その時点で卒論は不可となってしまう、最悪の場合退学・除籍です。そんな私たちからすれば、真実を重視すべき大学という場で、今回のような不正行為が行われ、それがうやむやにされてしまうというのは、絶対に許されないことです。

また、どちらにしても学内の意向投票の結果、過半数の有権者から支持されていた高橋候補ではなく、過半数の有権者から「ノー」を突きつけられた現学長の相良候補が次期学長候補に決定されたということも、私たちからすれば理解できることはありません。しかも、意向投票の結果をくつがえしてまで、なぜ相良候補に決定したのか、それに関して全く説明がなされていないとするなら、今回の選考は、世論の意向を無視したいわば密室で行われたと言わざるを得ません。それは、独裁国家によく見られる通り、ほんの一握りの人間による**高知大学の私物化**です。

もちろん、私たち学生に投票権はありません。しかし、私たち学生はこの高知大学に授業料を払っているものであり、私たちの声を無視した形でいろんな決定がなされていくというのは、納得できないことです。

それらを踏まえ、私たちは高知大学に対し、次の二点を要求し、署名活動を始めます。

- (1) 開票後に不正行為が行われたことに関し、その真相を究明し、責任を明確にすること。
- (2) 学内意向投票の結果に反して、現学長の相良候補を次期学長候補に決定したことに関して、その根拠を公開の場で私たち学生をはじめとする構成員の前で明確に説明すること。

いま、私たちは自分が高知大学の一員であるということを恥ずかしいことだと思っています。そう思っているのは私たち学生だけではありません。多くの先生方、そして事務職員の方々も、高知大学のこの現状を恥ずかしいと思い、今回の問題に関し真相究明を求め、怒りの声をあげています。

私たちは、そういった先生や職員の方々と連帯し、高知大学の一構成員として、この不正行為、そして大学の私物化に対し、怒りの声をあげていきましょう。

今ならまだ間に合います。一人でも多くの学生の皆さんがこの署名活動に協力してくれればと思います。